

リーグ優勝決定シリーズ (VS ボストン・レッドソックス)

第1戦(10月11日) レイズ 0-2 レッドソックス

「真っすぐに勝負してくれてうれしかった」

レイズの本拠地で開幕。第1戦は松坂選手の好投に苦しめられるも、4打席目の力勝負でレフト前ヒットを放ち、一矢を報いた(0勝1敗)

第2戦(10月12日) レイズ 9-8 レッドソックス

「ひとつ勝ち星を取ることがどれだけ難しいか」

第2戦は、8-8の同点で迎えた延長11回、一死2、3塁、一打サヨナラのチャンスで岩村の打順となるも…敬遠。後続の犠牲フライでサヨナラ勝ち(1勝1敗)

第3戦(10月14日) レイズ 9-1 レッドソックス

「階段は一つずつしか上がっていけない」

レッドソックスの本拠地で第3戦。この日の岩村は、2本の二塁打を放ち、プレーオフでの安打を継続。5打数2安打1得点でチームも快勝(2勝1敗)

第4戦(10月15日) レイズ 13-4 レッドソックス

「勝敗を分けたのは二回の併殺」

第4戦は、5打数無安打も、2回一死1、3塁のピンチで、二塁手に転向して初めてのグラブトスで併殺を決め、相手に傾きかけた流れを断ち、チームの勝利に貢献(3勝1敗)

第5戦(10月17日) レイズ 7-8 レッドソックス

「普通に考えたらあり得ない」

第5戦は、3打数1安打2得点2四球2盗塁と岩村の活躍もあり、終盤までに7点をリードするも、7、8、9回で7点差をひっくり返され、まさかのサヨナラ負け(3勝2敗)

第6戦(10月19日) レイズ 2-4 レッドソックス

「この苦しみや悔しさは
ここまで残ったチームにしか味わえない」

レイズの本拠地に戻り第6戦。この日の岩村は、4打数無安打。猛打を誇るレイズ打線が4安打と沈黙し、得点はソロ本塁打2発だけで、負けるべくして負けた(3勝3敗)

第7戦(10月20日) レイズ 3-1 レッドソックス

「大事にもってますよ、
球団にとられるでしょうけど」

レイズが先制されるも4回に同点に追いつき、5回には3連打で逆転。8回にも得点を加え、突き放した。そして、9回二死、二ゴロを岩村が処理し、ウイニングボールを手にする。この瞬間、チーム初となるア・リーグ制覇、そして初のワールドシリーズ進出を決めた。最終戦の岩村は、4打数1安打(4勝3敗)

※日付は日本時間

